

所属	看護学研究科 看護学専攻 分野	修士課程	修了年度	2019年度
氏名	田中 留美子		指導教員 (主査)	辰島美佐江 (糸井志津乃)

論文題目	手術室看護師が知覚する成長につながった学習活動 —手術室配属3年間に焦点当てて—
------	---------------------------------------------

本文概要

【目的】本研究の目的は、手術室配属3年間の学習活動のうち成長につながったと知覚する学習活動を明らかにし、その学習活動の特徴の考察を通し、手術室看護師の学習活動支援に向けた示唆を得ることである。

【方法】質的記述的研究デザインを用いた。ネットワークサンプリングを用いて、看護基礎教育課程修了直後に手術室配属となり、継続勤務している3年目から4年目の看護師を探索し、研究協力に同意の得られた9名を研究対象者として、インタビューガイドに基づき半構造化面接を行った。データ収集期間は、2019年5月から2019年8月であった。対象者が面接で語った内容の逐語録を作成し、文脈に注意しながら学習活動1つを含む内容を1コードとしてコード化した。各コードを比較し、類似性に基づき集合体を形成し、サブカテゴリ名を命名した。次に、各サブカテゴリを比較し、類似性に基づき集合体を形成し、カテゴリ名を命名した。続いて、各カテゴリを比較し、類似性に基づき最終集合体を形成し、コアカテゴリ名を命名した。

【結果】対象者9名の背景は、平均年齢24.1歳、平均臨床経験年数3.5年であった。質的帰納的に分析した結果、対象者9名により得られたデータから152コードを抽出した。152コードは、81サブカテゴリ、27カテゴリを形成し、手術室看護師が知覚する成長につながった学習活動を表す9つのコアカテゴリが形成された。9コアカテゴリとは、**【1. 1年目は、独り立ちできるまで指導者の指導を受けながら手術を担当する】****【2. 1年目は、指導計画に沿って、手術看護に必要な基本的知識や技術から詳細な留意点まで指導者から丁寧に指導を受ける】****【3. 1年目は、独り立ちできるまで、手術看護に必要な知識や技術のうち修得している点と修得していない点を指導者と明確にし、修得に向けた助言を受ける】****【4. 1年目は、指導者の学習への取り組む姿勢から主体的に学ぶ態度を見習う】****【5. 1年目は、指導者の指導を受けながら、手術看護に必要な知識や技術について見学する機会や参考資料を活用して学習する】****【6. 2年目から3年目は、未経験の手術を担当する際、指導者の指導を受ける】****【7. 2年目から3年目は、手術看護に必要な知識や技術のうち修得していない点について先輩や医師から評価を受け、修得に向けた自主的な学習について指導を受ける】****【8. 2年目から3年目は、手術看護に必要な知識や技術のうち修得していない点について自主的に学習する】****【9. 単独で解決できない問題について指導者と一緒に原因と再発防止策を考える】**である。

【考察】手術室に配属された3年間の学習活動のうち成長につながったと知覚する学習活動を表す9つのコアカテゴリが次に示す3つの特徴を持つことを示唆した。**【1】****【2】****【3】****【4】****【5】**は、1年目の手術室看護師の知覚する学習活動が、専門性の高い手術看護に必要な知識や技術について指導を受ける中で指導者の能動的な学習態度を見習い、徐々に能動的な学習活動に移行するという特徴を持つことを示唆した。**【6】****【7】****【8】**は、2年目から3年目の手術室看護師の知覚する学習活動が、知識や技術の修得状況の評価結果に応じて、受動的な学習活動と能動的な学習活動を使い分けて能動的な学習活動を展開するようになるという特徴を持つことを示唆した。**【9】**は、経験年数にかかわらず1年目から3年目の手術室看護師の知覚する学習活動が、単独での解決困難な状況に対して他者と協同するという特徴を持つことを示唆した。本研究の成果は、手術室配属4年未満の看護師自身が、成長するために効果的な学習活動を理解し、自己の学習活動を見直すことに活用できる。また、指導する立場の看護師が、手術室に配属された看護師が成長するための効果的な学習活動を支援することに貢献する。

【キーワード】手術室看護師 成長 学習活動